

● 有田さん 中聖牛のミニモデルの製作に成功 里山の会自力で組み立てられる第一歩を踏み出す

これまで里山の会は、4 度竹蛇籠を製作してきました。木津川で多くの子供達と夏休みに魚とりをしたところ全く採取できないことが度々ありました。川底が砂利採取で随分と低くなったこと、そして上流にダムが出来て土砂が供給されなくなったこと、支川となっている中小河川からの土砂の流れ込みが落ち着いたことと併せて、岸辺の草むらがどんどんなくなったこと等が原因で、産卵場所や身を隠す場所としてきた環境が少なくなったことだということです。そこで魚の棲み処を増やす蛇籠に効果があると竹蛇籠制作に取り組みました。その後京都大学から研究のお手伝いの依頼があつて、中聖牛の設置に参加しました。伝統河川工法ということで自然に優しい環境作りでした。これまで3 度中聖牛制作に挑みました。いずれも静岡県の大井川上流で行っておられる原小組さんからご指導を頂きました。この間に自力で組上げられるよう手順を記録してほしいと有田さんをお願いしてきました。これまでの経験から自力でミニ中聖牛を作り上げるまでに技術力を学んでそれを活かして組上げていただきました。次の段階は、実物で試行してみれば確実に自力で作られられると思います。できるだけ早く諸準備を整えて、組み立てたいと思います。その際のスタッフとして多くの皆様のお力添えをお願いします。本日滋賀県森林組合に出かけて木材の仕入れ交渉を行ってきました。夏に入ると伐採の適期ではないので納入は9 月頃になるとのことでした。

● 竹蛇籠製作方法の改善（体力消耗 長時間作業の短縮）などが軽減への課題

一昨年均一な材料の確保が第一と学び、竹割機を製作しました。昨年は幅均一の確保が必要と学び竹幅精製機を作成しました。そして柔らかく曲げやすくするためのヒビ（罅）入れ機を購入しました。これら3 種類の工具を使うことでその日に使用する分量の竹を割ることで比較的新鮮で柔らかく均一な品質の材料が用意できることになって、大きく改善が進みました。力任せのやりかたから合理的な施法に変わり、より良い製品となりました。今年は編み方の苦労を少しでも軽減できるような道具を作れないものかと頭を悩ましています。最低4 人の人手が必要ですし、1 本を完成させるには約2 時間は必要となっています。この製作時間を短縮できて平易に製作が可能になる方法へ進み、能率を上げるための道具を考え出せないものかと思っています。知恵をお貸してください。

● イタセンパラ復活を目指す取り組みへの課題

一般的に言って天然記念物であるイタセンパラの放流にはかなりハードルが高い取り組みであることは考えておりました。30 年ぐらひは必要であろうと腰を据えた取り組みと覚悟を決めていましたが、今年最後に生息していたといわれる池を調査してみるといなくなって10 年以上過ぎましたが、かなりの精度で生育できる可能性があることが判明しました。一挙に最大困難な課題が大きく前進したようです。それで活動が成功するための課題をピックアップすると17 項目に整理できました。何れもかなりの難題ですが焦らず時間をかければ実現できると思われます。早急に当面の取組みを進める順位付けをしたいと思っています。

● 結成 25 周年記念への取組 冊子化の素案提案が事務局会議にされる

結成 25 周年記念を迎える準備作業のうち記念になる記録や資料を収集し、新しい出発に参考になるよう、まとめることには一致してきました。具体的には、祝辞や挨拶に続いて25 年の歩みをどの様に表現するのか、イベントの紹介をどうすれば楽しく紹介できるのか、そして基礎的な資料をどの程度に抑えるのかなど悩むこと山積みです。そして何よりも全会員に届ける郵送費が莫大になりそうです。14 ページ物で140 円になり対象者予定者は計算上1000 人程度になりますので140000 円となり印刷費を上回り予算の相当部分を占めます。規模や内容も郵送費から計算しなくてはならない時代になっているのです。

● コロナウイルス対策 連休中の成果は一定上がる 予想される第2 波のピーク再現を抑えられるか

世界各国で生産活動や経済活動の疲弊から完全に終息していないにも関わらず活動が再開されています。日本でも一部を除いて指定が解除されます。近畿圏では京都府大阪府兵庫県はそのまま、里山の会の活動は自粛しなければなりません。約3 ヶ月に及ぶ活動自粛、三密回避厳守なので大変困難な状況が続いています。

そして何よりも私たち里山の活動・特にイベントは大勢に集まっていただく取組みが中心なので、緊急事態が解除されても工夫が必要で規模を縮小したものにならないのではないと懸念されます。

● 里山農園作業で安全教育の大切さ協調される 講師京都府に依頼中 安全作業第1

除草作業や耕運作業は屋内でのイベントでは必須になっています。ベテランですとこうした機械類の扱いに熟練されていて、かなり自由な使い方を心得ておられるのですが、何より負傷しないこと、安全に使えることが求められています。道具類は使いこなせなければストレスが溜まります。エンジンが回らなければ大変です。そこでこうした道具類の活用方法や安全教育の講習会を実施しようと計画中です。農園活動や調査活動にご協力いただける皆さんは、必須の取り組みであります。こうした講習会はそう何度も開催できませんので、多くの皆さんが受講頂きたいと思います。現在講師や指導者を京都府に依頼中です。

● 木津川希少種植生調査管理作業・除草作業進む

大釜さん有田さん、そして太田さんには5月の連休中に除草作業にずいぶん精を出していただきました。イタセンパラ池の通路確保で背丈を超えるほど大きくなったカラシナの刈り取りや希少種植生調査業務は八幡市から木津川市まで京田辺市域を除く全域の除草を行っていただきました。昨年から2台のハンマーモアとなり随分と能率を上げていただいております。

● 旧式ハンマーモアの調子上がらず 修理点検 修理を依頼

除草作業地が比較的小規模な場合(里山の会の面積程度)なら急傾斜地という条件を考えると適当に扱えるハンマーモアが最適のようです。これも去年はエンジンが壊れて載せ替えたので馬力は再生されたのですが、クラッチやブレーキ類、足回りの劣化が見られるようになりました。春の草刈前半部分が終わり一段落なので不具合カ所の点検修復のため、山城農協の農機具修復センターに持ち込みました。もう10年近い経年になりますので故障が目立つようになりました。

● 5月初旬で真夏日の天気予報が出る 沖縄では梅雨入り宣言された

桜が長く咲いていたとお伝えしたすぐ後に猛暑日、夏日、熱中症予防などの注意が発せられました。既設の激しい変化はスピードを上げてきているように見えます。地球の温暖化が進んでいるからなのでしょう。空気も飲料水も消毒しなければならなくなりました。不自由な社会になってきたものですね。

● 近くの田んぼでは苗代の用意が始まってきた

町を少し離れ見ると畦道には野草がみずみずしく茂り始めアカツメクサなどが元気に成長しています。レンゲの季節も間もなく終わりを告げることになりますね。田んぼでは耕運機がうなり始め田植えの準備が始められてきました。

● お茶摘みの準備最盛期 今年は値段が半額とかコロナウイルスで経済力がダウン

宇治茶が日本の茶文化を支えてきました。山城地域は高級茶の生産地で日本一の品質を誇っています。特に高級茶とされる玉露は茶園を覆い新芽を摘み取ります。この季節が始まってきました。宇治の「縣祭り」頃までの1か月が最盛期となります。

● 4《研究成果の河川整備・管理への反映》

これまでに、伝統的河川工法が河川生態系に与える影響を詳細に調べ上げた事例は少なく、本研究が今後の河川整備や河川管理において、伝統的河川工法活用する上でのモデル事例となる。各地で河床の樹林化や竹林繁茂が問題となっており、これらを河川事業に実用することが出来れば、持続可能な河川管理に資する事ができる。

5《背景・課題》

木津川下流では土砂供給の減少による河床低下と河道の二極化が問題となっており、土砂環境改善に向けた様々な対策が実施されている。適切な河床地形を目的変数として土砂動態を管理する「河床地形管理」の考え方に基づいて、竹蛇籠や聖牛などの伝統的河川工法を活用する河川管理事業が始まっている。ただし、伝統的河川工法が河床地形や生息場構造、生物群集へ与える影響に関する知見は乏しいために、それらの具体的な活用方針はいまだ確立されていないという課題が残されている。(次号に続く)